

ふたつの「筏師」の歌

川口幸宏

ある「筏師の歌」

| | |
|-----------------------------|------------------|
| Ah! qu'la vie est charmante | ああ、なんてすてきな暮らしなんだ |
| quand on a des rëntes | 遊んでやってけるなんて |
| quand on a des rentes | 遊んでやってけるなんて |
| Ah! qu'la vie est charmante | ああ、なんてすてきな暮らしなんだ |
| quand on a des rent's | 遊んでやってけるなんて |
| quand on a des rentes. | 遊んでやってけるなんて |



この歌は、ポール・オリヴィア著『仕事歌』(Paul OLIVIER, Les chansons de métiers, 1910)から引用した。人々はさまざまな生活の場でリズムと詩とを一体化させて、歌を誕生させてきた。同書『仕事歌』は人々が働く場で自ずと口から出た歌を拾い集めている。「筏師」の歌は、同書「II. 兵士、船乗り、船員」の章に収載されている(47頁)。

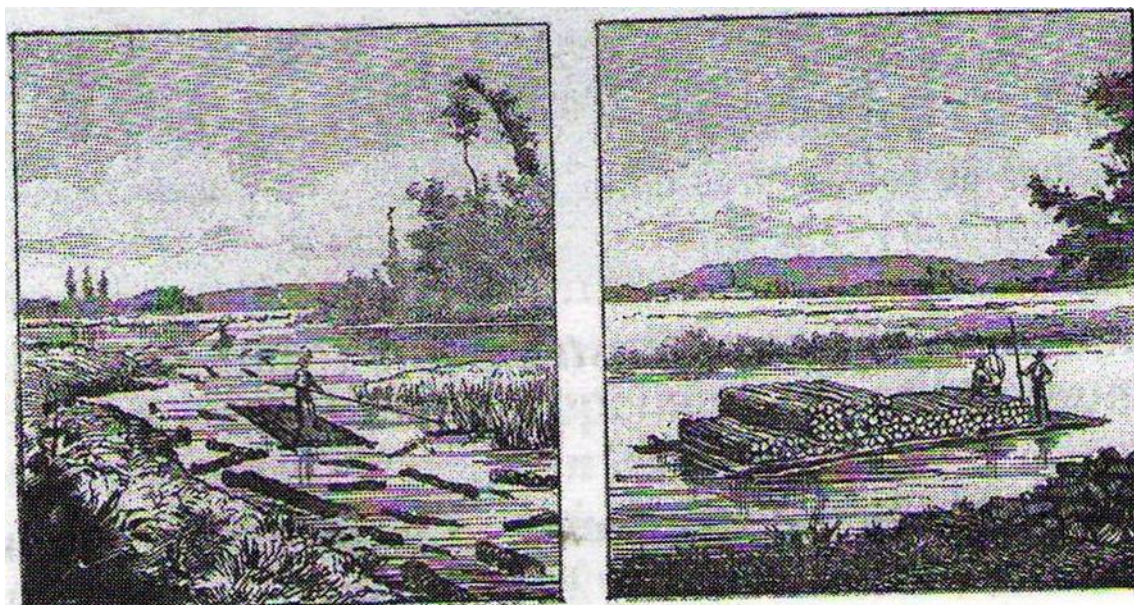
著者ポール・オリヴィアはこの歌に次のような解題を附している—

「筏流し(flottage)」は、(フランス中央部) ヨヌ川支流に沿ったモルヴァン地方で行われる。冬の間木こりによって伐採された木材が、夏に、筏の流せる(flottable)川にびっしりと浮かべられる。「叩かれた」薪材、すなわち両端に各商人ごとの目印となる記号が施された薪材は、いったんは、乱雑に流れに投げ込まれ (ばらばらの薪材の筏流し(flottage à bûches perdues))、さらに、寄せ集められて筏(train de bois)に造られる。「水の支配者」は長いクロを携え、長い行程をじっと己が立ち位置を占め続け、筏をコントロールし、薪材の塊の端、すなわち「トースト」に気を配り続ける。

それらがクラムシーあるいはヴェルマントンに到着すると、筏は停め置かれ、川から引き出され、そしてクラムシーからパリへ、はしけ(chaland)で運ばれる。

なお、上記引用文にキーワードとなる語句（訳語）に対し原文にあるフランス語をカッコ書きで添えた。

先の解題の第 1 段落は、図版で示すとさしずめ次のようになるのであろうか。2008 年、Jean-Cyrille Godefroy 社から刊行された Daniel Boucard 著『中世から 1914 年までの職人事典—イラスト入り、選詩集付き』に"Flotteur de bois"の項目に添えられた図版である。



第 2 段落のはしけについて、ここでは検討課題には据えないけれども、じつは、この解題ではしけと特徴づけられた運航手段にまつわる諸文化について綴ることが、本稿の目的である。はしけなのではない。「パリに供給するための、四角く、がっしりと、車輛連結のように結びあわされた薪材の筏 (le train des bois carrés, charpente, sciage et charbonnage réunis, pour l'approvisionnement de Paris)」なのである。本稿では「筏」と略称することを原則としている。

この筏の制作過程からパリに運航するまでの全過程を統括する職人を「筏師(flotteur)」と呼ぶ。知的障害教育の開拓者で知られ、この筏文化・産業を産み、350 年余ほども育んできたフランス・ブルゴーニュ地方の小都クラムシーで生まれたオネジム＝エドゥアール・セガン (1812-1880) が、1841 年に発表したエッセイ「筏師たち」の中で、「筏師たち、彼ら疲れを知らない水夫たち、建築家でもあり建造者でもありパイロットでもある彼ら」と讃えている。この讃辞の中にこそ職人・筏師の職能が特徴づけられている(部分訳ではあるが、拙著『知的障害教育の開拓者セガン～孤立から社会化へ』(新日本出版社、2012 年)に訳出紹介をした)。

ところで、これを歌う筏師は誰の生活を歌っているのだろうか。遊んでやっつけられる生活？筏師のそれ？筏師が薪材を届けるパリに住むすべての人びとの生活？少し考えてみたい。薪材を消費することができた社会階層はどうであったか。

このことに少しヒントを与えてくれる「筏師哀歌(la complainte des flotteurs)」という歌

がある（1788年、マルセル・プリュドーム作詩作曲）。

筏師哀歌

クラムシーとパリを行ったり来たり

巨大な筏のご主人は

連結薪を操って

ブルジョアたちを暖める

川にクソ

（*）最後の一文「川にクソ」の原文は Les Chi... dans liau. Chi...は chiasse の略記かと思われる。字義では「(昆虫の) ふん」を原義とし「下品なこと」という俗語を意味する。

きゃつらが水門に着いたなら

貧乏人と金持ちを

鉤付き棒で分けるのは

岸边に立ってすることさ

川に尻もち

（*）鉤付き棒の原語は picot（ピコ）。長い棒の先端に鉤がついている道具。筏師を象徴する道具である。森で伐採された薪材（樫の木枝）はヨンヌ川・ブヴロン川の上流（支流）で川に投げ込まれる。投げ込まれる木枝はまだ商品として仕分けられていない状態である。「貧乏人」とあるのは商品価値が極端に落ちる木枝、「金持ち」とあるのは商品価値のある木枝を象徴しているが、もちろん、それぞれの直接の消費者を言っている。

小塔河岸を手に入れたのは

ラトロールのお殿様

さあ、ちび殿、お椀をおしまいなさい。

渡し板は必要ございませぬ

クソを川で

（*）ラトロールの領主はヴィレーヌとブルーニョンの領主でもあった。領主のギラルド・ド・ソゼは 1711 年に旧クラムシーの南端にある小塔河岸（ブヴロン川沿い）に居を構えた。「お椀」とは、古い軍事用語で、兵士や船員が一緒に食べるスープの木製の椀のこと。「椀をおしまいなさい」という表現には、「いい加減で争いごとを止めなさい」という意味が込められている。「渡し板」とは敵地攻撃の際に城郭壁に渡される板。この節ではクラムシーはおまえさんには渡さないよ、という戯れになっている。

森の周りのあっちこっちから聞こえてくるよ

ツグミのヒナの歌声が

「作ってもらった巣が気に入っていたのに

木は行っちゃった」

流れに沿って

ヨンヌ川がセーヌ川に合流するのは

モンローの近く
なの心はバステュー
それでうきうき
川にクソ

守護聖人の息吹が元気づけるのさ
イル・マルゴの男どもを
キャツラはクラムシーの男どもと、よく似てる
ベルシー河岸へ
川にクソ

(*) イル・マルゴとは、ボルドーの近くを流れるジロンド川の中洲の小さな島。独立精神が強い地域で知られている。クラムシーもまた、たとえばフランス革命の機に乗じて中央政權から自立した独立共同体を作ろうとしたことなど、独立心が強い地域としての歴史を持っている。

頭一杯に
あんなことこんなことを詰め込んで
聞かせてやろう、目にしたことを
聞き込んだことを
クソしに川へ

あの話がちゃんと頭に残るように
そう、素敵なマオーのことさ
パリに向けて筏流しをする前に
男は入れ込んでおいていた…
川に尻

(*) マオー (Mahaut) のことと思われる。マティルド・ド・ダンマルタン (Mathilde de Dammartin) またはマティルド (2世)・ド・ブローニュ (Mathilde (II) de Boulogne, 1202年 - 1260年) を指して言い、ブローニュの女伯爵であった。1248年にポルトガル王となったアフォンソ3世と結婚し、ポルトガル王妃にもなった。1216年、母の死により伯位を継承する。1223年、クレルモン伯フィリップ・ユルブル (フランス王フィリップ2世と3番目の王妃アニェス・ド・メラニーの息子) と結婚した。彼はマティルドとの結婚と同時にブローニュ伯を名乗り、ブローニュ、モルタン、オーマール、ダンマルタンの共同統治者となった。ルイ8世が1226年に若死にすると、フィリップ・ユルブルは兄嫁で摂政のブランシュ・ド・カスティューに対し反乱を起こした。1235年にフィリップが死に、マティルドは一人で統治をしたが、男性の統治者が必要となり1238年にポルトガル王子アフォンソと再婚した。アフォンソは1248年に兄サンシュ2世の後継として王位に就いたが、ブローニュ伯も兼ねた。しかし、5年後の1253年にマティルドとアフォンソは離婚した。言い伝えによると、マティルドは即位した夫に同行せず、ブローニュに残ったままだったという。

ベトレームの司教様はなさいます
子どもに洗礼を授ける時
洗礼の日子どもを素っ裸にし

水にそのまま浸けてしまわれる

川に尻

ワシの歌がちゃんと韻を踏んでいないなら

捨てにゃならん

思い出を取っておきたい

本当の物語を

川に柳編ラケット持って

(*) 最後の一文の原文は Des Chis… dans l' iau. Chis… に該当する単語は chistera と思
われる。chisera はバスク人の球技 pelote 用の柳編みの槌型手袋を意味する。

もしもおまえたちがシッシュ橋から我が歌を投げ捨てるなら

歌は流れ去っていく

その時、大きな筏の我が仲間たちが

鉤付き棒を突き出すさ

川に尻

(*) シッシュ橋とあるのは、クラムシーを貫いて開削されたニヴェルネ運河に架かっていた橋
のこと。1900年に取り壊されて今はない。シッシュ(chiche)とは「出し惜しみをする」「けち」
という意味合いである。

(参考)

「Ah! qu'la vie est charmante / quand on a des rèntes / quand on a des
rentes

Ah! qu'la vie est charmante / quand on a des rent's / quand on a des rentes.

この中で、des rèntes、des rentes、des rent's、des rentes とあるのは、おそら
く韻を踏ませるためのスペル変形で、元単語は rente だろう。「年金」の意味である。社会
的業績、名声等に応じて「年金」が支払われた。しかも終生である。まさに、年金生活者
は「遊んで暮らせた」。「筏師」は年金などもらえない最下級の職人である。その筏師が年
金生活者（ブルジョアジー以上の身分のもの）のために、汗水垂らして薪材をパリに届け
る…。

そういう社会現象を揶揄した歌。「ああ、なんて素敵なんだ、遊んでやってけるなんて、
遊んでやってけるなんて…」